

📱 **社会安全学部 ホームページ**

社会安全学部に関するさらに詳しい情報については、「社会安全学部ホームページ」をご覧ください。オープンキャンパスなどのイベント情報や最新のニュースなどが確認できます。「学生インタビュー」や「社安な毎日」などのキャンパスライフ情報、「卒業生インタビュー」や「就職実績」といった進路情報など、社会安全学部での学びをイメージできる情報が満載です。



📱 **関西大学 入学試験情報総合サイト Kan-Dai web**

オープンキャンパスなどのイベント情報や入試に関する最新情報など、受験生を応援するコンテンツが満載! 社会で活躍する卒業生インタビュー、学生インタビューなども随時更新しています。



関大 入試 検索
 /クリック!



関西大学の最新情報をチェックしよう!

LINE 関西大学 入試センター **LINE公式アカウント**



友だち登録はこちらから!

Instagram 関西大学 入試センター **公式Instagram**



X 関西大学 入試広報グループ **公式 X**



YouTube 関西大学 入試センター **公式YouTube**



JRでのアクセス

JR京都線「高槻」駅(大阪・京都駅から共に約15分)下車、徒歩約7分。

阪急電鉄でのアクセス

阪急京都線「高槻市」駅(大阪梅田・京都河原町駅から共に約20分)下車、徒歩約10分。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からJR京都線で「高槻」駅下車、徒歩約7分。

大阪国際(伊丹)空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「南茨木」駅下車、阪急京都線に乗り換え「高槻市」駅下車、徒歩約10分。

社会安全学部

FACULTY OF SOCIETAL SAFETY SCIENCES

安全マネジメント学科



夢は人を助ける消防士。



災害を想定した実習で、
公務員をめざす。



災害情報を担う
ジャーナリストが目標。



命を守るリアルな実験と精緻な
シミュレーションができる
エンジニアに。

社会安全学部でどう学ぶか。

社会・人間・自然、そのすべての学問領域から最先端の知見を集めて「安全・安心」を探究します。問題を多角的に捉える総合力、実践的な解法を見出す即戦力を身に付けることができます。



社会安全学部

3つの学びの領域

社会

自然災害・社会災害につよい社会システムの構築

関連する学問 法学、経済学、社会学 など

人間

自然災害・社会災害と共生する人間の理解

関連する学問 哲学、心理学、教育学、医学 など

自然

自然災害・社会災害の発生過程の解明

関連する学問 工学、理学 など

Contents

- 03 学びの流れ・カリキュラム
- 05 科目紹介
- 07 研究紹介
- 09 課外活動
- 10 大学院

- 11 就職・進路
- 13 キャンパス紹介
- 14 教員・研究紹介

関西大学 社会安全学部をめざす皆さんへ

幅広い学問分野の知見を基に、危機管理能力を養う。

関西大学 社会安全学部では、安全・安心な社会を実現するために、災害や事故が起こるメカニズムを学び、それに備えるための策を人々が実行できるまで落とし込みます。そのため、自然現象を読み解く工学や理学、災害時の人の行動と心を知る人間行動学、災害に対応できる行政システムを築くための法学や経済学など、幅広い科目群に加え、1年次から演習や実習科目を多数配置しています。実習や演習では例えば、自治体の防災担当者になったものとして地震が起きた際の対応を考えるなど、幅広い科目から得た知識をどう組み合わせ、どう使っていくのかを実践的に身に付けます。また、安全・安心は地球全体のテーマでもあるため、国際現場で生かせる英語教育にも力を入れています。

災害時には何が起るかわかりません。そうした災害に備える策を練るには想像力も必要となります。さまざまなことに関心をもって取り組める方、私たちと一緒に「安全・安心」をテーマに、課題解決能力を身に付けてみませんか。そうして培われた危機管理能力は、将来幅広い分野できっとあなたの役に立つことでしょう。



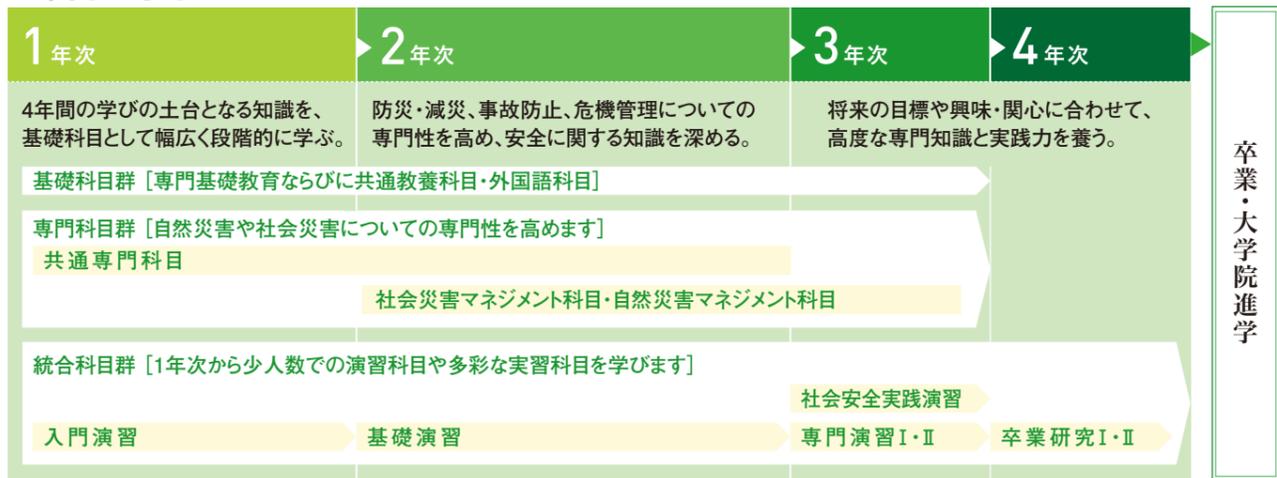
社会安全学部長
土田 昭司 教授

学びの流れ・カリキュラム

文系・理系の枠を超えて、幅広い分野を網羅。

自分自身で学び方を選び、興味の幅を広げ、知識を深めることができます。

4年間の学び



私の学び方

文系・理系を問わず総合的な視点で防災を学びたい

高齢化・過疎化が進む故郷を災害から守る方法を考えています。

4年次生 三嶋 昂将さん (鳥取/県立米子西高校出身)

「安全・安心の行政法」では災害関連の政策の背景にある理論を学び、「災害復旧・復興論」ではその理論を防災現場に生かす手段について考えます。また熱や煙の伝わり方を物理的な視点から捉える「火災論」も履修しました。防災に対する総合的な学びを、故郷である鳥取県西部のために役立てたいと考えています。



三嶋さんの時間割 (2年次春学期の時間割)

| | Mon | Tue | Wed | Thu | Fri |
|---|------------|---------|-------|-----------|-----|
| 1 | | | 基礎演習 | | |
| 2 | 犯罪論 | 英語Ⅲa | | 災害復旧・復興論 | |
| 3 | | 事故調査制度論 | 災害情報論 | 安全・安心の行政法 | |
| 4 | | 防災まちづくり | 英語Ⅳa | | |
| 5 | 社会安全のための数学 | | | | |

私の学び方

地盤や耐震といった専門的な学びを自分の進路につなげたい

自然災害のメカニズムや対策をさまざまな学問を通して理解します。

4年次生 西田 理染さん (兵庫/神戸市立科学技術高校出身)

「地盤災害論」では土質力学の理解をもとに地盤災害のメカニズムや対策について考え、「耐震工学」では建物や道路の安全性を学びます。また苦手だった「英語」の必修科目をがんばったことで、英語での論文執筆ができました。大学で学んだことを、「液化化対策をはじめとする「自然災害に負けない国土づくり」に生かしたいと思います。



西田さんの時間割 (2年次秋学期の時間割)

| | Mon | Tue | Wed | Thu | Fri |
|---|----------|-------|---------|-------------|----------------|
| 1 | | | | プラクティカル英語Ⅱb | |
| 2 | | | 労働安全衛生論 | | |
| 3 | 耐震工学 | | | メンタルヘルス論 | |
| 4 | 科学技術史と社会 | | | プラントの安全 | 社会安全実践演習(合意形成) |
| 5 | 地盤災害論 | 専門演習Ⅱ | | | |

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
|--------------|--|---|---|--|---|
| 基礎科目群 | 必修科目 社会安全学総論Ⅰ 社会安全学総論Ⅱ IT実習 選択必修科目 社会安全のための数学Ⅰ 社会安全のための数学Ⅱ 社会安全のための統計学 選択科目 安全と法制度 経済学概論 哲学 自然科学概論 科学技術史と社会 経営学概論 論理学 地球科学概論 現代の国際社会 近代史 倫理学 法学概論 現代史 心理学 行政学 世界地理 社会心理学 特殊講義(各テーマ) 寄附講座(各テーマ) 共通教養科目 健康・スポーツ科学実習a(各種目) キャリア形成入門演習 カーボンニュートラル入門 健康・スポーツ科学実習b(各種目) SDGs入門 活用法を見聞するAI・データサイエンス 健康・スポーツ科学実習c(各種目) SDGsの実践 活用法を体験するAI・データサイエンス 健康・スポーツ科学論 金融の実務から見るSDGs 起業に学ぶ「考動力」入門(関大出身起業家と考える未来の自分) 大学生から始めるキャリア形成 環境問題と環境政策のルーツ 起業に学ぶ「考動力」実践(企業と考える未来のデザイン) [チャレンジ科目]各テーマ 外国語科目 英語Ⅰa/b ドイツ語Ⅰa/b フランス語Ⅰa/b スペイン語Ⅰa/b 中国語Ⅰa/b 英語Ⅱa/b ドイツ語Ⅱa/b ロシア語Ⅰa/b スペイン語Ⅱa/b 朝鮮語Ⅰa/b プラクティカル英語Ⅰa フランス語Ⅰa/b ロシア語Ⅱa/b 中国語Ⅰa/b 朝鮮語Ⅱa/b 検定認定1(各検定試験) 検定認定2(各検定試験) 検定認定3(各検定試験) 外国人留学生科目 日本語Ⅰa/b 日本語Ⅱa/b 日本語Ⅲa/b 日本事情Ⅰ/Ⅱ Contemporary Japan (Understanding Japan, Researching Japan, Japan in Mass Media 1/2) Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1/2, Business Japanese, JPN Corporate Culture) Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan) Japanese (1-a/b~7-a/b) | 英語Ⅲa/b 英語Ⅳa/b プラクティカル英語Ⅰb 現代社会を生き抜くためのキャリア形成 社会のためのデータサイエンス実践基礎 AI・データエンジニアリング実践基礎 | プラクティカル英語Ⅱa/b | | |
| 専門科目群 | 共通専門科目 災害事例分析 化学物質と環境リスク 製品安全論 安全システム論 都市構造物の歴史 防災教育 社会調査の基礎 | 安全の思想 安全・安心の企業法 クラインスマネジメント論 地方自治法 地方財政論 リスクと災害の経済学 治安政策論 交通システム安全論 ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ論 保険論 交通事故と損害保険 防災行政論 リスクマネジメント論 | 危機管理とリーダーシップ リスクと災害の社会学 リスク認知論 リスクコミュニケーション 人間行動実験法 リスク評価法 気候変動と地球温暖化リスク 応用データサイエンス | 情報セキュリティ論 公衆衛生学 BCP 社会調査法 災害ジャーナリズム論 | |
| | 社会災害マネジメント科目 | 消費者安全関連法 犯罪論 災害心理学 | ヒューマンエラー メンタルヘルス論 群集安全論 | 食の安全学 医療と医薬品と安全 事故調査制度論 | プラントの安全 労働安全衛生論 流行病の制御学 |
| | 自然災害マネジメント科目 | 防災まちづくり 地震害論 環境問題事例研究 | 水災害論 地盤災害論 耐震工学 | 総合防災・減災論 災害復旧・復興論 火災論 | 環境政策論 災害情報論 |
| 統合科目群 | 選択実習科目 数学実習 AI実習 必修演習科目 入門演習 選択演習科目 就職概説 教育原理 日本史概説Ⅰ/Ⅱ 図書館情報資源概論 | 社会安全体験実習 統計データ解析実習Ⅰ/Ⅱ GIS実習 災害シミュレーション実習 基礎演習 | 災害調査実習 事故調査と事例分析実習 | 社会調査実習Ⅰ 社会調査実習Ⅱ ものづくり実習 人間行動実験実習 | 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ |
| | 自由科目群 教職概説 教育原理 日本史概説Ⅰ/Ⅱ 図書館情報資源概論 インターンシップ(各機関) | 東洋史学 西洋史学 地誌学Ⅰ/Ⅱ 地理学概説Ⅰ/Ⅱ 教育制度論 | 人権教育論 教育心理学 社会科教育法(一) 社会科教育法(二) 公民科教育法(一) | 公民科教育法(二) 道徳教育の理論と方法 特別活動論 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む) 教育相談論 | 情報資源組織論 学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 |

取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 社会安全士
- 社会調査士
- 司書教諭
- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事

※赤字は必修科目。※その他グローバル科目群も一部履修可能です。

科目紹介

講義紹介

社会安全学を支える幅広い教養と、防災・減災や事故防止に関する専門知識を学びます。

社会 【新規開講】交通システム安全論

吉田 裕 教授

安全・安心な社会を実現するために交通システムのあり方を考える

交通システムの発展の裏側では、不特定多数の一般人が犠牲となる運輸分野の事故が後を絶ちません。運輸分野における事故防止や安全の確保は、国民が安心して暮らせる社会を実現する上で必要不可欠な課題です。本講義では、交通の歴史や基礎理論への理解を深めた上で、現代や将来における交通の課題を把握し、安全・安心な社会を実現する上での交通システムのあり方を考えていきます。

学びの KEYWORD > ● 交通システム ● 事故防止 ● 安全向上

受講生の声

縄文時代から現代まで、交通手段の発展と歴史が学べる有意義な授業でした

縄文時代の丸木舟や家畜にはじまり、現代の自動車や飛行機に至るまで、交通手段の発展とその歴史を中心に学びました。交通は人々の「足」となるだけでなく、健康や住まいをより豊かにしてくれることを知りました。



人間 メンタルヘルス論

廣川 空美 教授

こころの健康問題について、精神疾患の知識を学び、支援方法を考える

人生のさまざまなライフステージにメンタルヘルスの課題が存在し、身体的な健康は大きな影響をもたらします。私たちは人と人との関わりの中で生きており、家族や学校の友人、職場の人間関係など、社会とのつながりも重要です。本講義では、地域生活と社会活動上の安全問題を読み解く基礎知識を修得し、専門的観点・異分野の専門家等とのコミュニケーションを通して社会に貢献することができるようになることをめざします。

学びの KEYWORD > ● ライフステージ ● メンタルヘルス ● 予防と支援

受講生の声

家族や友人との関係づくり、そして日々の暮らしに役立つということを学びました

心の健康に興味があって受講しました。受講前まで、メンタルヘルスケアは専門性の高いスキルだと思いましたが、暮らしの身近なところにも課題があり、初歩的なことから自分でも実践できるということを学びました。



自然 【新規開講】応用データサイエンス

福井 敬祐 准教授

データを活用し、社会の課題を解決するさまざまな方法を学ぶ

データサイエンスは社会に存在するさまざまな情報（データ）を活用して、あらゆる分野の課題を解決することを目的とする学問分野です。本講義ではデータサイエンスの応用に焦点を当てて、データの処理・分析・理解を効率よく行うための数学・統計学の基礎理論や実際の解析方法について学び、社会安全に関するさまざまな分野との協同が可能な人材の育成をめざします。

学びの KEYWORD > ● データサイエンス ● 統計学 ● データ分析

受講生の声

統計解析能力を向上させ、卒業研究や将来の仕事に生かすため履修しました

実践演習を通じて、データを加工・分析・結果解釈するというデータサイエンスの一連の流れを体験しました。分析力だけでなく、結果を正しく解釈し、図表化する表現力や論理的思考力も大切だと気付きました。



実習・演習紹介

「安全学」を実社会でどのように生かすかを、学内はもちろん学外でも主体的に学びます。

社会安全体験実習

中村 隆宏 教授

道路を利用するすべての人の立場から、自動車運転の安全性を体験学習する

自動車運転にともなう危険を認識するため「クレフィール湖東・交通安全研修所」で1泊2日の宿泊研修を実施。受講者は実際に車に乗って具体的な危険状況を模擬体験し、「なぜ危険なのか」「どう防止するのか」「事故が起きそうな時、どう対処するか」を検証し、レポートを作成します。実習の目的は、道路空間を利用するすべての人が「事故防止のために何ができるか」を考えること。そのため、例えば「後部座席に乗る人がシートベルトをしない危険とは、実際にはどんなものか」など、同乗者の危険も体験学習します。



実習の流れ

学ぶ

講義を通じ、交通安全に関わるさまざまな課題を学びます。

体感する

特別プログラムを通じ、身近な危険を疑似的に体験します。

習得する

知識と経験をもとに、安全の在り方を考え、習得します。

社会安全実践演習

(クライシスマネジメント) 高野 一彦 教授

ロールプレイングによって、専門知識の実践的な活用法を習得する

社会安全実践演習には、「クライシスマネジメント」「危機管理計画立案」「危機管理本部運営」「合意形成」の4つのテーマがあり、それぞれのテーマごとに演習が行われます。「クライシスマネジメント」は、3日間の集中講義で行います。第1～2日は、不祥事・製品事故など、実際の事件をケースとし、ディスカッションを通して経営判断の基礎を学びます。第3日は、企業でのクライシス発生を想定して、経営者としての一連のクライシス対応を模擬的に経験します。3日間を通して、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。



実習の流れ

知識の習得

法学、経営学、心理学など、企業や組織の経営に必要な学問分野を学際的に学びます。

ケースメソッド

ケースを使ったディスカッションを通して、社会災害の予防・発生時の判断を学びます。

シミュレーション

クライシス発生時における、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。

ものづくり実習

川口 寿裕 教授

工作機械の使用体験を通じて、作業員および製品の安全性について学習する

我々の身の回りの製品の多くは工作機械を使って作られています。工作機械は便利ですが、使い方を誤ると作業員あるいは作られる製品による事故につながります。本実習では各種工作機械の特徴と安全に関する注意点を知らずして「ものづくり」を体験しますが、工作機械による加工技術の習得が目的ではありません。実際のものづくりの現場や工程を体験することで、工作機械を使用する際の作業員および製品の安全性について本質的な理解を促し、事故防止について考えるヒントになることを期待しています。



実習の流れ

学ぶ

講義を通じ、各種工作機械の概要と安全に使用するための注意点を学びます。

つくる

工作機械を実際に使って簡単なものづくりを体験し、講義で学んだ安全性について実感します。

習得する

知識と体験を融合させ、工作機械を使用する際の安全について理解を深めます。

共同研究プロジェクト

社会安全学部は文理融合の教育・研究を行っており、異なる分野の教員やゼミが協力し、フィールドワークや研究活動を展開しています。

【地盤工学×情報学】

日本各地で高まる土砂災害のリスク。山間部では過疎化・高齢化が進み、コストのかかる土木工事をする余裕もありません。そこで、住民自ら、簡易な観測機器を使って前兆をキャッチ、みんなで情報共有する仕組みづくりを学生が支援しています。



【耐震工学×総合防災・減災】

一見すると「防災」とは無関係に思われる「灯油の巡回販売サービス事業者」。企業の独自技術やサービスを防災に応用するアイデアを学生も案出することで、従来とは異なる手法で、家具の転倒防止や避難所の環境改善を促進していこうとしています。



研究紹介

3つの学びの分野からそれぞれ1つゼミをピックアップして、どのような研究に取り組んでいるか語ってもらいました。

社会



4年次生 草場 みのりさん
(福岡/県立東筑高校出身)

4年次生 高橋 昂さん
(大阪/府立清水谷高校出身)

4年次生 平沼 極さん
(大阪/大阪女学院高校出身)

「防災行政」や「危機管理」のあり方について、実際の地域課題と結びつけながら考えます。

永田ゼミでは、自然災害をはじめとする危機に対して、行政が果たすべき役割について研究しています。私たちはゼミ活動の一環として、長野県上田市で開催された「公共政策フォーラム」に参加しました。同市の「人口減少時代の持続可能なまちづくり」について考え、政策提言という形で発表するという学生コンペです。まずは事前調査グループが現地に赴き、市役所や災害対策関連部門にヒアリング調査を実施。調査したところ、上田市は降雨量が少なく、大きな活断層から離れているため歴史的に自然災害が少ないこと、また原子力発電所からも一定の距離があることなどがわかりました。私たちはこの情報をもとにゼミ全体で議論を重ね、「自然災害に強い」という本来の強みに、「救急医療体制の充実」や「情報通信技術」といった新たな要素を加

えた地域活性化策にまとめて発表。その結果、参加した全国14大学の中から最優秀賞に選ばれました。こうした活動を通して、防災や安全対策といった社会安全学部での学びが、実際の地域の課題解決に役立てられるという実感が得られたこと、さらに政策としての実現可能性が高く評価されたことが、大きな自信につながっています。



▲人形を使った人命救助の演習の様子。ディベートやプレゼンコンペを含め、学生主体のゼミ活動で生まれるチームワークの良さが、永田ゼミの特徴。

担当教員より

本ゼミでは3年次生の前半に政策ディベートを行います。テーマは防災や危機管理に限らず、政治や行政、経済など社会の動きに合わせて設定するため、幅広い分野の知識や、問題を読み解く力が磨かれます。また、学生政策コンペにも毎年参加しています。リアルな地域課題に接しながら、その解決につながる政策を



ゼミ全体で考えることで、リーダーシップや自分の役割を果たす責任感、チームワークが養われます。

永田 尚三 教授

人間



4年次生 脇本 拓馬さん
(大阪/府立阪南高校出身)

4年次生 西郡 夏音さん
(京都/大谷高校出身)

「交通安全」と「消費者安全」をテーマに、興味をもった社会問題を掘り下げて研究します。

岡本ゼミでは、主に2つの分野を扱います。事故の原因と対策、法的責任について考える「交通安全」と、悪質商法やSNSのトラブルについて掘り下げる「消費者安全」です。現在の日本では、安全であることが当たり前と思われがちですが、実は日常にもさまざまな危険が潜んでいることをご存じですか？例えば、国民の生活をより快適にするために政府が導入した「マイナンバーカード制度」をめぐる、さまざまな問題が起きています。問題の事例を調べ、要因ごとに分類してみると、ヒューマンエラーによって発生する問題が過半数であることがわかりました。政府や自治体が行っているサービスの問題点を調べ、自分自身でも対策を考えられる点に、この研究の面白さがあると思います。また、「日用品の安全」について調べてみると、消費者が日用品を購入する際に何

を重視しているかという調査では、82.8%の人が「価格」だと答えています。普段何気なく使っている日用品の安全性を疑う人は少ないですが、価格と安全性の関係を研究することで、価格優先だけではない消費行動のあり方を探れたらと思います。ゼミでは現地調査や他大学との合同ゼミ合宿などのイベントもあり、新しい刺激をもらいながら研究を進めています。



▲福岡にある西日本鉄道株式会社の社員訓練施設を訪問調査。事故に対する徹底した安全教育に感動しました。

担当教員より

本ゼミでは、消費者が関わる事故・トラブルの原因究明と対策立案をテーマに研究を進めています。事故原因の究明には心理学の知識が大切です。対策立案は個人に対する注意喚起に留まらず、法制度自体を見直す必要も出てきます。ゼミメンバーの研究テーマはさまざまですが、身近な消費者問題を手がかりに



社会における安全上の問題を自分事としてとらえ、心理学と法学という多角的な視点から解決策を探ることをめざしています。

岡本 満喜子 准教授

自然

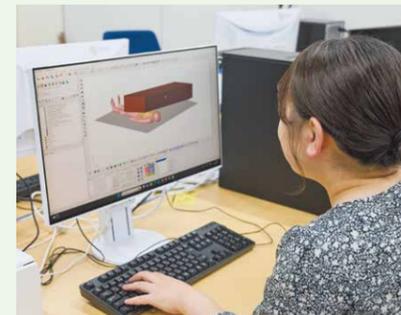


社会安全研究科
博士課程前期課程 1年次生
梁矢 晴加さん
(京都/京都橋高校出身)
(社会安全学部卒業)

事故によって人間と構造物が衝突するプロセスをシミュレーションしています。

伊藤ゼミでは、交通事故や大規模自然災害が発生したとき、人体と周囲の構造物の間で起こる衝突のメカニズムや、それらが人体にどの程度の傷をもたらすのか、またその被害を軽減する方法について、力学的な観点から研究しています。研究には、構造物の変形などをシミュレーションするソフトウェアを用いています。もともとは自動車の衝突事故を再現するために開発されたソフトウェアですが、これを地震災害の研究にも応用しています。たとえば家具の形状や人間との位置関係、性別の違いによる体格差など、さまざまな条件を設定することで「地震によって家具が転倒し、仰向けの人の上に倒れた時、どのような傷害が起こるのか」といったことがシミュレーションできます。そのためには力学をベースとして、情報工学や機械工学、さらには医学や解剖学など、幅広い分野の知識が要求されます。

覚えなければならないことは多いのですが、衝撃の瞬間の力の伝達や、家具・人体の変形のプロセスが目に見える形でわかる点が、この研究の面白いところです。地震災害が断続的に起こっている昨今、実際の人間ではできない実験ができるこの研究が、災害時のケガの防止や家具転倒対策の啓蒙に少しでもつながればと思っています。



▲ゼミの先輩から受け継いだ研究テーマを発展させ、本棚の扉の有無など、衝突をより軽減しやすい家具の形状についても考えています。

担当教員より

私たちは交通安全や傷害バイオメカニクス、製品安全といったテーマについて研究しています。ソフトウェアやデータを使って衝突の瞬間をシミュレーションしたり、ドライビングシミュレータや電動キックボードを使用して運転者の行動を分析することもあります。テーマやアプローチはさまざまですが、インプットとアウトプ



トの間にあるプロセス、つまり「その瞬間に何が起きているのか」にフォーカスし、考えぬく力を身につけてほしいと思います。

伊藤 大輔 教授

課外活動

高槻ミュージックキャンパスを拠点とした公認団体は、7団体あります。その他にも、千里山キャンパスを中心に活動するクラブ(体育会・文化会等)やサークルに参加することができます。

高槻ブルーファイターズ (野球)

未経験者大歓迎!皆で野球を楽しみ、上達することをめざしています。

社会安全学部の学生によって構成する軟式野球チームです。野球経験者に限らず、これからやってみよう、野球が大好きな人であれば誰でも参加可能です。チームの大半が初心者ですが、経験者が中心となって優しく指導しています。試合には経験や能力によらず全員が出場できるなど、誰もが楽しみながら上達できるチームをめざしています。女子学生の選手・マネージャーも大歓迎です!



▲新チームで臨んだ初の公式戦。



KUMC

出張授業や防災イベントを通して学部での学びを地域に発信しています。

東日本大震災で教育支援したのをきっかけに発足した社会安全学部の学生団体です。大阪市内の小学校で「防災出前授業」を定期的に開催するほか、地域・学内で行われる防災関連イベントにも参加。地域イベントでは「防災啓発ブース」の出展や、ゲームやクイズ、体験を織り交ぜた防災教育などに力を入れています。千里山キャンパスの学生も合わせると約700名で組織しており、多くの学生とのつながりができる点も当団体の特徴です。社会安全学部で学んだことをアウトプットすることができ、自分の成長につながります。



▲高槻市内の小学校に防災教育をしに行ったときの写真です。小学生も参加しやすいように内容を構成しています。



KANDAI DPE※

※DPE…Disaster Prevention Education(災害予防教育)

子どもたちに楽しみながら防災意識を高めてもらうことが目標です。

ドローンやVRなどのICT機器を使って、子どもたちに防災の重要性を伝える活動団体です。例えばドローンは被災地域の状況確認や、救援物資の運搬で活躍しますし、VRは災害時のリアルな疑似体験を可能にしてくれます。まずは子どもたちに楽しんでもらい、防災に対する関心を高めることによって、家庭や地域の防災力を上げていくことが目標。小・中学校での防災教育に力を入れたいと思っています。



▲防災とイベントを組み合わせ、防災に興味を持ってもらえるようなイベントを行っています。ドローンを用いて被災者(マネキン)を探る体験してもらいました。



つなたかLab.

津波・高潮ステーションを拠点に防災教育や関連イベントを開催しています。

津波や高潮の発生時に水門を制御する「津波・高潮ステーション」を拠点として、防災教育や防災関連のイベントを開催しています。主に小中学生を対象に「防災クイズ」をはじめとする防災教育活動を行うほか、年に1度だけ淀川大橋で行われる「防潮鉄扉閉鎖訓練」の見学会も開催しています。こうした活動を通して防災に関心をもつ人を増やし、災害に対する危機意識を高めてもらいたいと思っています。



▲ミュージックキャンパスで防災クイズを行いました。

大学院

学部を卒業したら、企業や組織に就職しないといけないと思っている人、そんなことはありません。社会はより高度な知的生産力が求められる時代になりつつあります。今日の社会は多くの仕事がAIに置き換えられていく中で、答えを求める力ではなく、問いを立てる力こそ求められる時代です。大学院における研究活動は、そうした問いを立てる力を効果的に身に付けることができます。

大学院は、特別な人がいく場所なのでは?

『いいえ。大学院は研究活動を通じてより高度な知的生産技術を学ぶ場所です。』

Q 社会安全研究科の大学院は、文系なの?理系なの?

A 学部同様ですが、文系・理系というくくりでは捉えられない学問領域です。言い方としては学際的な分野となりますが、それは文系にも理系にも当てはまるということです。社会の安全に関する諸事象は、複数のアプローチ(系)から物事を捉えることになり、そのため双方の視点を学ぶことになります。そうすることで、これまでにない「知」に触れることができる研究分野です。



Q 大学院にいったら、企業や組織で就職が遅れて不利になるのでは?

A 大学院卒を積極的に採用する職種や業界は、学部卒に比べて多くはありませんが、その多くは高度な知的生産を必要とする職種で、一般的に給与水準も上がる傾向があります。令和5年賃金構造基本統計調査によれば、大学卒の月給は全年齢平均で36万9400円であるのに対して、大学院卒は47万6700円となっています。就職が数年遅くなったとしても、生涯賃金の面では十分アドバンテージがあります。



社会安全研究科

博士課程前期課程・後期課程(防災・減災専攻)

関西大学大学院社会安全研究科は、「安全の学知」の集積・体系化に取り組むとともに、防災・減災政策の立案と実践、危機発生時の社会的合意形成の技術開発、防災・減災のための制度設計などを担う高度な知識とシミュレーション能力を有する先端的研究者ならびに専門職業人を育成することをめざしています。社会安全研究科は、法学・政治学・経済学・経営学・社会学・心理学・理学・情報学・工学・社会医学などの従来の個別的な学問体系では対応しきれない問題に正面から取り組む新しい大学院研究科です。学際的、複眼的なアプローチを通じて、「安全・安心な社会」を実現することを第一義的に捉え、高度な研究教育を推進します。



PDM(Ph.D.of Disaster Management Program) ※英語のみの博士課程後期課程

Ph.D. course in Disaster Management (PDM) will prepare you with a high level of analytical skills and knowledge to make a difference in the fields of disaster management, including disaster mitigation, preparedness, response, and recovery. The curriculum combines interdisciplinary training in engineering, economics, psychology, and management in order to produce leaders with innovative ideas for disaster reduction in both practice and the academic field.



大学院で研究活動を



社会安全研究科
博士課程前期課程
2024年3月修了
村田 宗一郎さん
(大阪/関西大学北陽高校出身)
(社会安全学部卒業)

主体的に研究を進め、納得の進路選択を実現できました。

学部在学中に研究の楽しさを知ったこと、より多くの知識と経験を得たいという思いから大学院に進みました。研究内容は、地震時の液化化を考慮した地盤流動の動的解析です。海外で発生した事例を対象に、数値解析を用いた再現解析を行い、さらに解析条件などの影響評価も行いました。学部生の頃に比べると、主体性をもって研究に取り組めたと思います。第一志望の企業に就職が決まりましたので、社会安全学部・大学院の卒業生としての誇りをもって日々精進していきます。



▲自身の研究以外の研究にも積極的に参加し、学部生に指導を含めた交流を行います。

就職・進路

「安全・安心な社会」への関心が高まる中で、社会安全問題を専門とする人材は、公共部門、民間部門を問わず、幅広く必要とされています。社会安全学部では、学生一人ひとりのキャリア形成を支えています。

キャリア支援

キャリアセンター

自らの進路を主体的に定めるキャリアデザインに必要な力を育む環境があります。

キャリアセンター高槻ミュージックキャンパス分室では主に社会安全学部生を対象とした就職・キャリア形成支援に関するガイダンスや各種セミナーを実施。また、キャリアセンタースタッフや就職専門相談員が、将来の進路への不安や就職活動の進め方など、あらゆる学生の相談に親身に対応しています。就職活動が始まる以前の1・2年次生から参加できるキャリアデザイン関連の行事も展開することで、未来を見据え、主体的に自らの進路を捉えて行動が起こせる環境を整えています。



キャリア教育

キャリアデザインを考える

- キャリアセンター主催のセミナーの受講
- 各種インターンシップへの参加
- 「キャリア形成科目群」の受講

基礎能力の向上

全員を少人数制クラスに配属。専任教員が各クラスの指導担当となり、社会人として必要なスキル(情報を収集する、読解する、書く、発表する、議論する)の訓練を行う。

- ▶「入門演習」(1年次)
- ▶「基礎演習」(2年次)

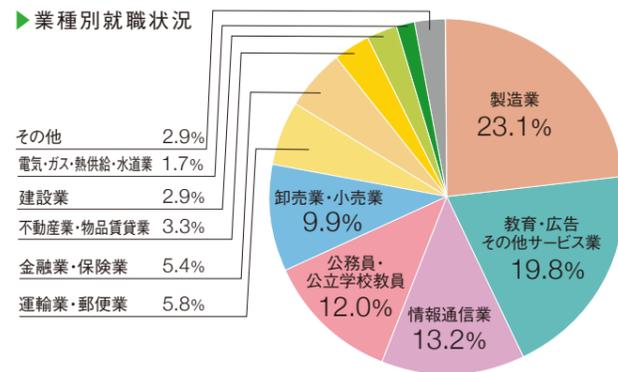
多彩に広がる将来の活躍フィールド

- 企業** 業種・業態を問わず、あらゆる分野で社会安全問題のスペシャリストが求められています。
- 国・自治体等** 公務員やNPO、さらに災害関連の国際機関職員として、世界を舞台に活躍するチャンスが広がっています。
- 研究** 大学院への進学や研究機関などへの就職により、安全・安心の仕組みづくりが期待されています。

取得できる資格 中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)、社会安全士、社会調査士、司書教諭、司書、学芸員、社会教育主事

就職実績

社会安全学部第11期生の就職率は、99.2%(男子99.4%、女子98.8%)と、引き続き高水準を維持し、13学部中、上位の就職率となっています。また、公務員・公立学校教員の占める割合も12.0%と高い水準を保っています。安全・安心に対する社会の高いニーズに応えた結果といえます。



就職・進学先の一例 <2024年3月卒業生実績>

| | | | |
|----------------|--|---------------|--|
| 製造業 | アイリスオーヤマ、旭化成、イシダ、イビデン、エフピコ、兼松エンジニアリング、亀田製菓、極東開発工業、サンスター、山陽特殊製鋼、三和シャッター工業、住友大阪セメント、住友重機械工業、セイコーエプソン、積水メディカル、象印マホービン、タイガー魔法瓶、東京エレクトロン、東洋製罐グループホールディングス、TOTO、日本車輻製造、能美防災、プロテリアル、ホーチキ、三菱電機、ミネベアアミミ、モリタホールディングス、大和製鋼、ローム など | 卸売業・小売業 | 青山商事、イオンリテール、伊藤忠建材、稲畑産業、岩谷産業、スターゼン、日本アクセス、ファミリーマート、ルイ・ヴィトンジャパン など |
| 教育・広告・その他サービス業 | ALSOKグループ、大阪府結核予防会、近畿日本ツーリスト、神戸学園、JTB、セコム、地域医療機能推進機構、東武トップツアーズ、日本マクドナルド、マイナビ、マネジメントソリューションズ、龍谷大学 など | 運輸業・郵便業 | ANA大阪空港、鴻池運輸、四国旅客鉄道(JR四国)、センコー、西日本旅客鉄道(JR西日本)、日鉄物流、日本通運、阪急電鉄 など |
| 情報通信業 | NECソリューションイノベータ、NTTドコモ、キャノンITソリューションズ、Sky、ニッセイ情報テクノロジー、日本総合研究所、富士ソフト、三越伊勢丹システム・ソリューションズ、三菱総研DCS など | 金融業・保険業 | ジェーシービー、南都銀行、日新火災海上保険、日本生命保険、三井住友海上火災保険、三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJニコス など |
| 公務員・公立学校教員 | 国家公務員一般職、滋賀県職員、兵庫県職員、高知県職員、大阪市職員、長野市職員、茨木市職員、高槻市職員、豊中市職員、佐賀市職員、日出町職員、京都府教員、大阪府教員、福岡県教員、京都府警察官、東京消防庁、福知山市消防吏員、大阪市消防吏員、神戸市消防吏員、奈良県広域消防組合消防吏員、小豆地区広域行政事務組合消防吏員 など | 建設業 | 積水ハウス、太平電業、大和ハウス工業 など |
| | | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 大阪ガスネットワーク、中国電力 など |
| | | その他 | 全国農業協同組合連合会、日本赤十字社 兵庫県支部、パナソニックグループ労働組合連合会、本州四国連絡高速道路 など |

卒業生インタビュー

新たな業務ごとに学びながら、渋滞や事故に対する計画策定を行っています。

建設コンサルタントとして、インフラ整備の調査・設計・施工管理・維持管理の一連の流れを担当しています。私が所属している部署は交通に関する計画を行うことが多く、渋滞対策や事故対策などを担うこともあります。現在、主担当として行っているのはバリアフリーに関する業務で、障害者団体の方々や外国の方々ワークショップやヒアリングを行いながら基本計画を作成しています。担当する業務ごとに勉強を重ね、創意工夫をしながら進めていくので、知識とできることが増えていく感覚が得られ、自身の成長を感じられるところが魅力でありやがいです。今後どんな分野でも勉強して、広い視野をもって取り組むという姿勢でがんばり続けたいと思っています。

現在の仕事に役立っていること **防災を多面的に考え、実践した経験が今につながっています。**

在学中に得た「1つのことを他分野・多角度から検討する」姿勢が、特に役に立っていると感じます。1つのゴールに向かってさまざまな立場の人たちの声を聞き、より良い答えを導き出さなければならない中において、複数の視点から課題を検討することで合意形成を図り、調整するための力が身に付いたと感じます。

いであ株式会社に勤務



梶谷 装和さん
社会安全学部 2019年3月卒業
社会安全研究科 博士課程前期課程 2021年3月修了

多様な人や業界と関わりながら、世の中の安全を支える一員として働いています。

さまざまな産業機械を火災から守るための消火装置の販売営業を行っています。消火器の販売にとどまらず、お客様の「火災から守りたい」という願いを実現することが目標です。そのため、自社の自動消火装置を営業活動や展示会などで知っていただき、安全対策や火災予防に役立てていただくためにさまざまな提案を行っています。お客様の業界は多岐にわたるため、消防・防災業界に限らず、業界を越えて人と知り合える機会や、業界について学び・関わる機会があることが大変面白く、魅力だと感じています。総合防災メーカーとして、世の中の安全を支える中で、防災を学んできた自分に何ができるか、その視点は常に忘れずに進んでいきたいです。

現在の仕事に役立っていること **防災を多面的に考え、実践した経験が今につながっています。**

お客様に寄り添って話を聞き、機械や装置のことを理解し、安全な仕様を組んで商品を提案・提供すること、業界の動向についてもキャッチし続けること。これらは在学中、研究室でのフィールドワークなどを通じて行ってきた実践的な学びとよく似ていますし、包括的な防災を考える点は同じだと感じます。

株式会社初田製作所に勤務



長谷川 夏帆さん
社会安全学部 2021年3月卒業

公務員として福祉行政に携わる上で、文理融合の幅広い学びが活かされています。

大学で学んだ防災・減災の知識を生かし、災害への危機管理を高めてより多くの命を救いたいと思い、大阪府庁を志望しました。現在は生活保護を担当し、府内の市町村や指定介護機関への指導や監査を実施して、生活保護法や介護保険法に基づく行政が適切になされているかの確認を行っています。国と市町村との橋渡し役を担い、府全体が適切な行政を行えるよう正確・丁寧な業務に努めています。将来的には、在学中の防災・減災に関する学びを生かすとともに、より専門的な知識を身に付け、災害対策を行う危機管理の業務に携わることが目標です。自然災害による被害を最小限にできるよう対策して、大阪をより災害に強い街にしたいと考えています。

現在の仕事に役立っていること **文理融合の幅広い学びが、公務員としての業務に役立っています。**

文理融合の幅広い知識を身に付けられることが、公務員として働く上でアドバンテージであると感じます。公務員に必要な法律の知識も学んだことで、適切な業務遂行につながっています。リスクマネジメントに関する知識のほか、心理学やメンタルヘルス学も生活保護受給者に寄り添う福祉行政に役立っています。

大阪府庁に勤務



宮内 瑞樹さん
社会安全学部 2020年3月卒業

キャンパス紹介

社会安全学部がある高槻ミュージズキャンパスの特徴的な施設・設備を紹介します。



ミュージズキャンパスはJR高槻駅から徒歩約7分、阪急高槻市駅からも徒歩約10分の交通至便な立地。また、大阪の都心や京都に30分程度で行くことができ、大学生生活のさまざまな場面で便利なキャンパスです。

- 1 東館**
(初等部・中等部・高等部校舎棟)
- 2 西館**(大学・大学院学舎棟)
 - ミュース大学図書館
 - 安全ミュージアム
 - キャリアセンター
 - ミュース保健センター
 - 関西大学児童図書館
 - エクステンション・リードセンター
 - 生涯学習センター
 - ミュースホール
- 3 北館**
 - レストラン“ミュース”
 - 災害用備蓄倉庫 ほか

特徴的な施設



安全ミュージアム

社会安全学部・社会安全研究科で取り扱う「防災・減災・危機管理」などの学問領域を題材にした資料を展示しています。また、生涯学習の地域拠点として、市民への開放もしています。



ゼミ研究室

3年次からは、すべてのゼミに学生専用のゼミ研究室があるという恵まれた環境のもと、ゼミ生同士で活発な議論をしながら研究を進めています。



災害用備蓄倉庫

防災拠点として、災害時に必要な食料や生活用品のほか、発電機や非常用ライトなども保管しています。また、プールの水を浄化して、生活用水を確保するシステムなども備えています。



Global Smart Classroom

各キャンパスをオンラインで結び、対面メオンラインでの授業を可能にします。対話しやすい独自の遠隔会議システムにより臨場感を確保し、遠隔でも能動的に参加できる授業を実現しています。



アクティブ・ラーニング教室

グループワークなど、実践的な授業の受講に適した教室です。電子黒板やプロジェクターが豊富に設置されています。



レストラン“ミュース”

中学生から大学院生まで、さらには一般の方も利用できる地域開放型レストラン。リーズナブルで豊富なメニューは大好評で、オープンカフェコーナーなどつろぎのスペースも備えています。



ミュース大学図書館

手が届きやすいように低い書架が並び、圧迫感なくすっきりとした空間には、約5万冊の充実した図書がそろっています。希望の図書がなければ、他キャンパスの図書館から取り寄せることも可能です。



ミュースホール

4階と5階にまたがって広がる、500人を収容可能なミュージズキャンパスで一番大きな教室です。大スクリーンや最新AV機器の設置だけでなく、カラフルな色調で明るい雰囲気を作り上げるなど、デザイン面でもこだわりがあります。

ミュージズキャンパスの地域交流イベント



多彩なメニューの公開講座



近隣住民の方々との炊き出し

キャンパスを体験しよう!

▶ オープンキャンパス2024 @高槻ミュージズキャンパス

6/23(日)・8/24(土)

(午前中のみ)

詳しくは [こちらから](#) ▶▶▶▶

教員・研究紹介

社会安全学部の教員とその研究を紹介します。

社会



亀井 克之 教授
専門分野
■ リスクマネジメントとその事例



高野 一彦 教授
専門分野
■ コンプライアンスとCSR・情報法



山崎 栄一 教授
専門分野
■ 地方自治体と災害対応



中間 千香子 准教授
専門分野
■ 公衆衛生学、老年医学、生活習慣病、感染症



桑名 謹三 教授
専門分野
■ 事故と損害保険



永田 尚三 教授
専門分野
■ 消防行政



吉田 裕 教授
専門分野
■ 交通システム安全論、事故分析



高鳥毛 敏雄 教授
専門分野
■ 公衆衛生学、食の安全学、感染症制御学



永松 伸吾 教授
専門分野
■ 災害の経済分析と減災政策



河野 和宏 准教授
専門分野
■ 情報セキュリティ

人間



近藤 誠司 教授
専門分野
■ 災害とメディア



廣川 空美 教授
専門分野
■ 職場のメンタルヘルス、社会疫学、健康心理学



城下 英行 准教授
専門分野
■ 防災教育・安全教育



土田 昭司 教授
専門分野
■ 安全の社会心理学



元吉 忠寛 教授
専門分野
■ 災害の心理学



菅 磨志保 准教授
専門分野
■ 支援と復興の社会学



中村 隆宏 教授
専門分野
■ 事故・災害とヒューマンエラー



岡本 満喜子 准教授
専門分野
■ 消費者安全と事故調査制度



菅原 慎悦 准教授
専門分野
■ リスクをめぐるガバナンス

自然



一井 康二 教授
専門分野
■ 性能評価に基づく耐震設計



川口 寿裕 教授
専門分野
■ 事故のシミュレーション



高橋 智幸 教授
専門分野
■ 水災害の防災・減災技術



福井 敬祐 准教授
専門分野
■ 統計科学



伊藤 大輔 教授
専門分野
■ 自動車衝突安全・衝撃生体力学・事故分析



越山 健治 教授
専門分野
■ 未来都市に潜む災害危険性



林 能成 教授
専門分野
■ 地震学、地震災害



奥村 与志弘 教授
専門分野
■ 総合防災・減災学



小山 倫史 教授
専門分野
■ 地盤災害



細川 茂雄 教授
専門分野
■ 熱・流れと安全

特別任命教授



社会安全センター長 河田 恵昭
専門分野
■ 防災・減災学の構築

東日本大震災の被害の10倍以上となる南海トラフ巨大地震や首都直下地震などが起これば、わが国はつぶれてしまいます。そのような最悪の被災シナリオにならないように減災対策を提案します。